令和４年度北空知地域住民フォーラム開催結果（評価）

項　目	内　　容
１現状・課題	・平成２７年度に深川保健所主催で住民フォーラムを開催、今後も在宅療養や終活について自分の問題として考えられるような住民への普及啓発は必要であるという結果となった。 ・北空知地域は、在宅医療よりも病院や施設に入院・入所し最期をむかえることが多い地域。患者本人、家族の在宅医療に対する理解、覚悟も必要。家で亡くなりたい高齢者もいるが、病院で安心したい家族の思いもある。単身、老老介護の問題もある。 ・このため、本協議会においても、平成２９年度に北海道看護協会の事業を活用し深川市で初めて開催、以降各市町持ち回りで開催することとなった。
２目　　的	北空知地域の住民が自分や家族の老いや死を自分自身の問題として考える機会とするいつまでも住み慣れた地域で元気で楽しく暮らすために必要なことを考える機会とする
３対　　象	北空知地域在住の住民　地域住民の在宅医療・介護を支える支援関係者等
４日　　時	令和４年１１月８日（火）１４：００～１５：０５
５場　　所	秩父別町老人福祉センター
６出 席 者	６０名　（参加者の事前申込　　６０名） （秩父別町７９名　うち一般６０名、支援関係者１９名） ※感染対策のため一般参加者は町民限定
７内　　容	（１）北空知地域の在宅医療・介護の取組紹介 「自宅で安心して暮らすために～チーム北空知の取組」 ・紹介者　北空知地域医療介護連携支援センター事務局長　村田　真紀さん ※北空知地域で在宅療養が必要になった時、どんな支援ができるか、北空知地域の支援関係者から事例を紹介しながら情報提供 （２）講演「これからの自分の生き方を考える ～あなたにとっての終活を考えてみませんか？～」 講師　一般社団法人終活ジャパン協会　代表理事　池田　智裕さん （３）質疑応答
８結　　果	目的：１.地域住民が自分や家族の老いや死を自分自身の問題として考えることができる機会となる ２.いつまでも住み慣れた地域で元気で楽しく暮らすために必要なことを考える機会とする ・時間に余裕をもって来場された方のために、地域リハビリテーション活動支援事業で発案した介護予防体操「ライスパワー体操」のＤＶＤ動画を上映。ビデオを見ながら一緒に身体を動かす参加者もいました。希望者へのＤＶＤ提供（１セット２００円）も行いましたが購入者はありませんでした。 （１）取組紹介 ・北空知の将来予測や医療・介護の状況、広域連携の必要性の説明。平成２８年に「北空知地域医療介護確保推進協議会」が設立され、「チーム北空知」を目指しさまざまな取組が行われていることを紹介した。また、介護予防や健康づくり、病気や介護を必要としたときに暮らしを支えるサービスの紹介など住民の皆さんへの情報提供が

	できました。 （２）講演 ・終活は、元気なうちにすることが大事。病気やケガなどいざという時は突然やってくる。これだけやればいいという範囲は決まっていない。 ・財産が少なくても自分の意志を示すことは必要。残された親族間のトラブルを避けられる。市販のエンディングノートに書き足していき、溢れるようになったら遺言書にする。 ・生前遺品整理は必要。使えないもの・使わないものは捨てる、置き場所を決める、買う量を決める、などが整理のポイント。大量の醤油やティッシュ、洋服などがよくあるパターン。 ・遺品を近所の人や親族に渡すことは考えない方がよい。自分では価値があると思っても、以前（社交辞令で）褒められたとしても貰った方は困る。写真もこれはというものだけに整理しておくとよい。 上記の内容を話され、参加者は終活としてするべきことやその必要性に対する理解を深めることができました。遺品整理にあたっては本人が残したメッセージを見つけて家族へ引き継ぐことなど、遺品や現場を一つ一つ確認をされているとのことで、池田代表の取り組みの丁寧さが感じられる講話でした。 （３）質疑応答 ・今回は感染対策としてフォーラムとしての意見交換はせず、質疑応答をおこなうこととしました。 ・参加者からは「仏壇や遺影は処分していいのか」との質問があり、池田代表からは「昔は考えられなかったことだが、最近はよくある相談。お焚き上げをして供養することで仏壇仕舞いしたり、又は小さなものに変更したりするなどの方法がある」と説明をいただきました。 （４）アンケート結果：回答者数４３名　配布数６０名　回収率７１．７％ ・北空知の取組紹介について知ることが出来た、まあまあ知ることができたと回答した人は４０人で９５．２％でした。 ・講演は参考になった、まあまあ参考になったと回答した人は回答者全員の４３人 ・自分自身の人生最期を考えることが出来たが２８人、３９．４％、家族の人生の最後について考える機会になった１２人、１６．９％で、自分と家族の双方のことを考える機会となったと思われます。 ・自由記載では、終活はしようと思っても中々できない、元気なうちにやらなければと思った、自分の事を考える機会が増えている事に講演を聞いて認識した、相談することが大切である、など興味深く参加された様子が記載されていた。 ・参加のきっかけは在宅医療・介護について関心があったが最も多く２１人、４５．７％。ポスター・チラシをみたが１５人、３２．６％でした。 ・全体をとおして回答内容の傾向は前回北竜町のフォーラム時と同様の結果でした。 （５）まとめ ・アンケートの結果からも人生の最後について考える機会となり、また、自身や家族の人生の最期について今から準備が必要と思ったなどの意見が多く、フォーラムの目的は達成されたと思われます。 ・講演では終活とは何をしたらいいのか、具体的な事例を写真やポイントを示して説明していただき、実際に現場で遺品整理などを行っている池田代表の言葉に参加者は

	熱心に聞かれていた様子が見られました。 ・質疑応答では、仏壇の整理など扱いに困っていることの発言があり、池田代表から的確なアドバイスの回答があり、発言者以外の参加者も頷きながら理解を深められていました。 ・感染症対策として、今回は開催町民限定、訪問看護の事例発表を割愛し時間短縮、フォーラム形式での意見交換はせずに質疑応答にとどめたことなど、現時点で出来る限りの方法を模索し開催しました。参加者の年齢層から WEB 開催は難しいと思われ、今後も同様の対応が適切か検討していきます。 ・説明の持ち時間は、センター説明が予定をオーバーしてしまいましたが、概ね予定どおり終了時間で終えることができました。 ・アンケートの記入に机が無いため書きづらいとの意見があり、クリップボードなどの配布が必要でした。 ・今回はテストとして会場の様子を広角カメラで協議会委員へ配信しましたが、機材の性能やネットワークの状況などから「はっきりと聞き取れない」、「会場（観客）の様子がわかればよかった」などの意見が寄せられ、今後の検討が必要です。 次年度（沼田町）は感染状況を踏まえ、可能な限りフォーラムとしての体裁を整えられるよう検討することを課題として企画することが必要ではないかと考えます。 （６）次年度以降開催地　　２０２３年度　沼田町（以降は未定）